

滋賀県感染症発生動向調査 感染症週報

令和5年第19週（5/8～5/14）【COVID-19 情報】

令和5(2023)年5月18日発行 滋賀県感染症情報センター

【第18週までのデータは各医療機関から報告があった日次報告から定点医療機関分を抽出し計算しています。】

1. コメント

- ・ 定点当たりの報告数は、緩やかな増加傾向が見られます。保健所別では、大津市、草津、甲賀、東近江、彦根で増加傾向が見られます。年代別では、各年代で大きな割合の差は見られません。
- ・ 変異株ではXBB.1.5の占める割合が増加してきており、置き換わりの状況が感染動向に与える影響に注視が必要です。

2. COVID-19の定点当たり報告数（全国は前週）の値

定点当たりの報告数とは、定点医療機関からの1週間の報告数を定点医療機関数（COVID-19は60）で割った値のことで、1医療機関当たりの報告数のことです。（例：1週間の報告数200 ÷ 60 ≒ 3.33）

疾病名	滋賀県			保健所別							全国 (前週)
	2週前	1週前	今週	大津市	草津	甲賀	東近江	彦根	長浜	高島	
新型コロナウイルス感染症	1.18	2.07	1.82	3.54	1.46	1.86	1.60	1.00	0.86	0.67	

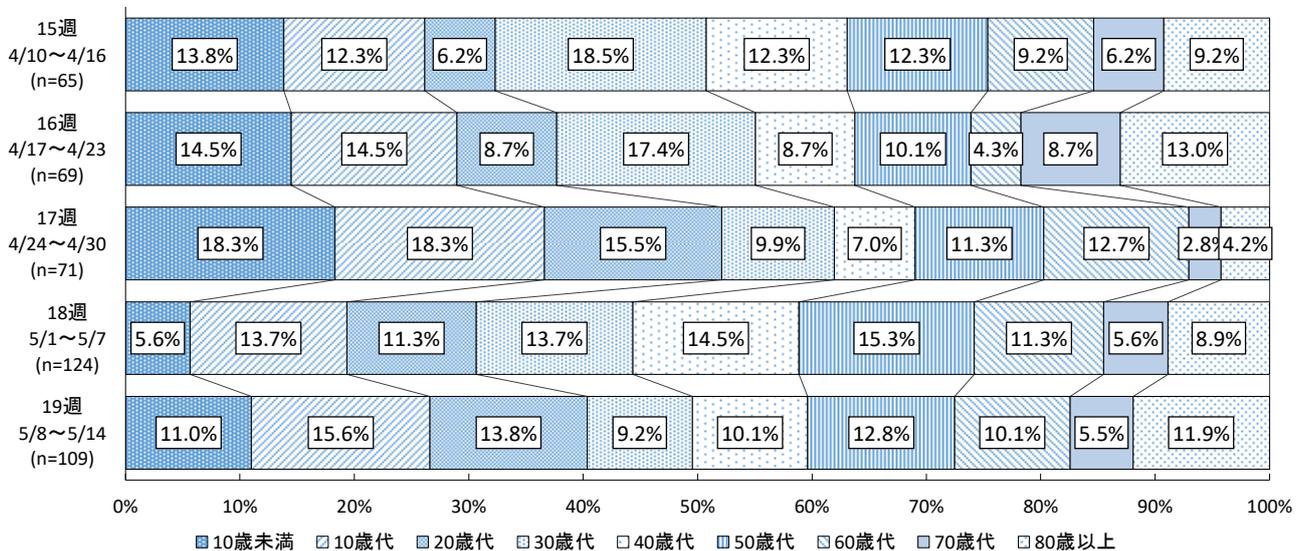
※全国の数値は第20週（5/15-21）の週報から記載します。

3. COVID-19の年齢階級別報告数（滋賀県、今週）

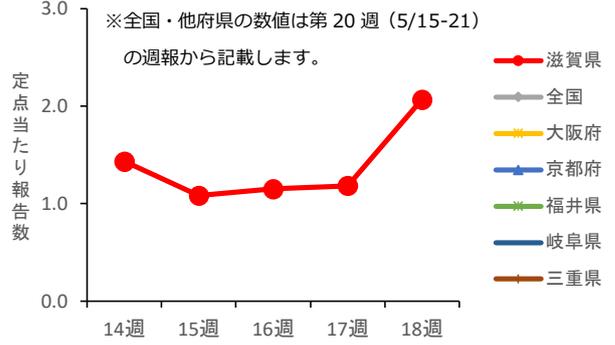
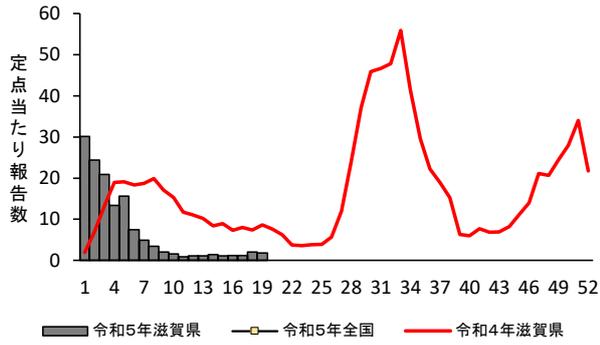
COVID-19定点	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳～
滋賀県 (60医療機関)	109	-	3	3	1	-	-	-	1	2	2	-	6	11	15	10	11	14	11	6	13
大津市保健所 (13医療機関)	46	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	3	3	5	4	6	7	8	2	7
草津保健所 (13医療機関)	19	-	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	5	4	2	1	-	-	1	1
甲賀保健所 (7医療機関)	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	1	2	3	1	1	2
東近江保健所 (10医療機関)	16	-	1	-	1	-	-	-	1	1	1	-	2	1	2	1	1	2	1	1	-
彦根保健所 (7医療機関)	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	1	1	-	-	1	1
長浜保健所 (7医療機関)	6	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	1	1	-	2
高島保健所 (3医療機関)	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-

「-」: 報告なし

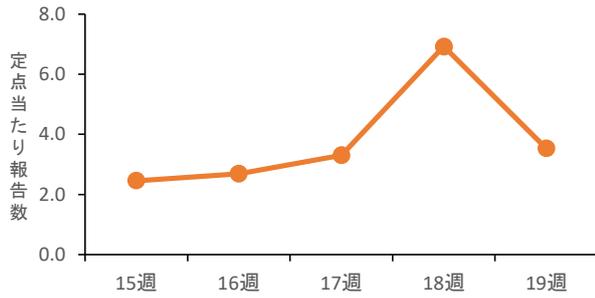
4. COVID-19の年齢階級別報告割合（滋賀県）



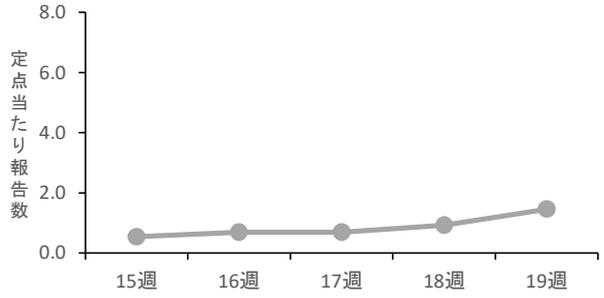
## 5. COVID-19の発生動向・保健所別推移等 (全国・他府県は前週まで掲載)



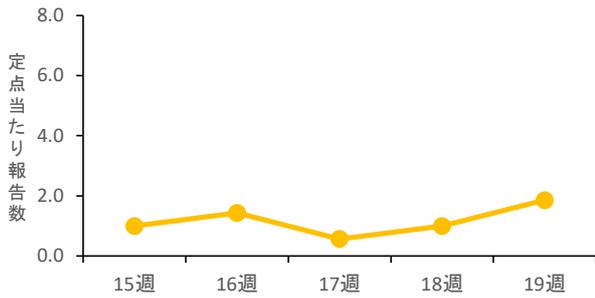
大津市



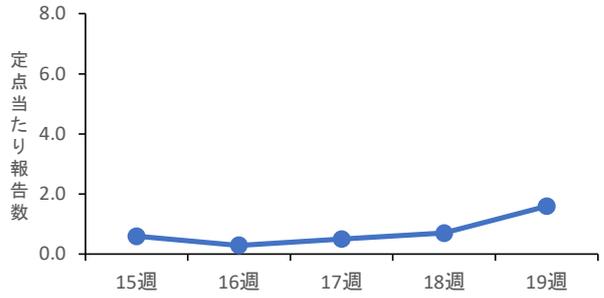
草津



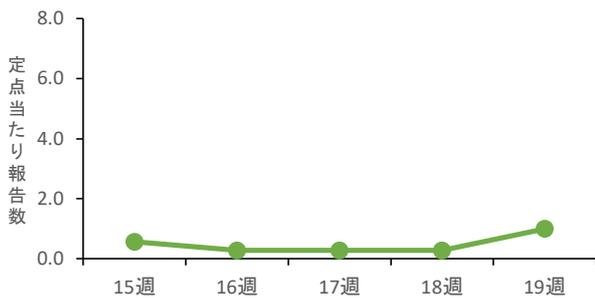
甲賀



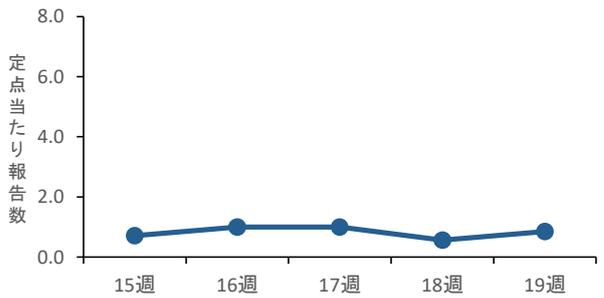
東近江



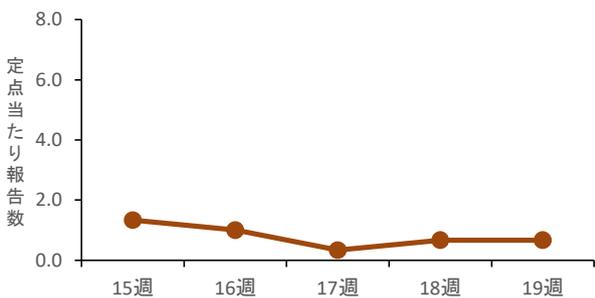
彦根



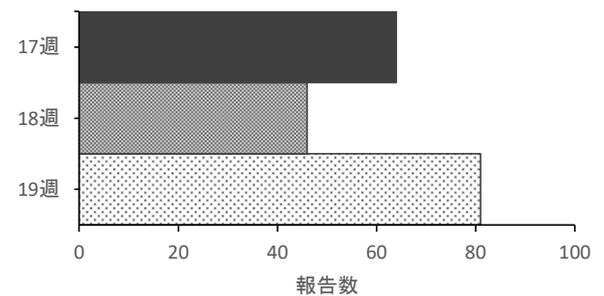
長浜



高島



学校欠席者情報収集システム(滋賀県)



# 変異株にかかるゲノム解析状況について

健康危機管理課作成  
5月14日時点

- 世界的には、XBB.1.5系統が検出された亜系統の47.9%を占めている(4月21日国立感染症研究所資料より抜粋)。
- 滋賀県および日本ではXBB.1.5系統の検出割合が上昇傾向にある。
- 滋賀県では、令和5年4月時点ではXBB.1.5系統(32.1%) およびBA.5系統(24.5%)が感染の主流系統となっている。
- XBB.1.5系統は、重症度については現段階で変化は認められていないが、他のオミクロン株の変異ウイルスより広がりやすいこと、免疫を逃れる性質が強いことが示されている(1月25日WHOリスク評価による)。

## ゲノム解析結果(検体採取日別 月報)

